

# OBOGの キャリアデザイン



長崎大学大学院 国際健康開発研究科

## 小野真代さん

愛知淑徳高等学校第50回卒業(平成9年度卒業)。

公立中学校から愛知淑徳高等学校へ。在校中はダンス部での活動やボランティア活動などに励む。群馬大学 医学部 保健学科に進学し、助産師、看護師、保健師の資格を取得。卒業後は名古屋市立大学病院や名古屋市立中川保健所で働き、その後、西アフリカ・ベナン共和国で青年海外協力隊として活動。2010年に長崎大学大学院 国際健康開発研究科(修士課程)に入学。現在は2年生。公衆衛生学修士(MPH)取得後は博士課程進学をめざす。

## 高校生の頃に培った 自らの道を突き進む力が、 今も私を動かしています。

### ◆自主性が培われた 愛知淑徳での日々

愛知淑徳高等学校に在学中、学業はもちろん、さまざまなことに主体的に取り組みました。1年生のときはダンス部での活動、2年生からは学外でのボランティア活動に熱中。また、3年間を通して、学園祭などの学校行事にクラスの仲間とともに熱くなり、みんなで意見を出し合って教室展示などをづくり上げました。先生方が私たちの自主性を信じて見守ってくださっていたからこそ、のびのびと学び、活動することができたと感じています。進路を決める上でも「助産師になりたい!」という志を貫き、希望の大学に進学することができました。



小野さんが特に思い入れがあるのが、高校3年生の学園祭での「タイタニック」の再現。「来場者の方々に楽しんでもらえるよう船の揺れも表現しました。仲間と一緒に成し遂げた経験は、私の一生の財産です」



高校1年生の学園祭では、クラスメイトと「美」をテーマにした展示を行った。右端が小野さん。「化粧水などの基礎化粧品について調べました。興味があることをとことん追究するおもしろさを実感しました」

### ◆夢をかなえた後も、 新たな目標へと前進

助産師をめざしたのは、新しい命の誕生に立ち会う仕事に就きたいと考えたから。その初志を忘れず、進学先の群馬大学 医学部 保健学科で看護の専門性を養いました。そして助産師をはじめ看護師、保健師の資格を取得。卒業後は名古屋市立大学病院や名古屋市立中川保健所で助産師、保健師としての道を歩み始めました。

夢をかなえ、忙しくも充実した日々を送る中で、新たな目標が芽生えてきました。もともと私は、大学で国際看護についても学んでいたことから、海外で働くことにも興味を持っていました。それが、医療現場で経験を重ねるうちに、「海外で自分の専門性を活かしたい!」という明確な目標になっていったのです。

### ◆海外での活動に挑み、 大学院に入学

ワーキングホリデー制度を利用してカナダで多様な国の人と交流を深めながら語学力を磨いた後、専門性を海外で活かすべく、青年海外協力隊に参加しました。思いきって飛び込んだ先は、西アフリカのベナン共和国。予防接種を広める活動などに携わり、開発援助や国際保健に関する専門知識の必要性を実感するとともに、国際協力の現場で力を尽くしたいという自分の新たな方向性が定まっていきました。

帰国後、公衆衛生学修士(MPH)が取得できる長崎大学大学院 国際健康開発研究科へ入学し、助産師の経験もあることから母子保健をテーマにして研究に取り組んでいきます。1年生の夏には1か月間、バングラデッシュで緊急産科ケアなど母子保健のプロジェクトを見学し、現状をしっかりと見つけながら知識を深めることができました。

### ◆ケニアで約8か月間、 インターンシップに参加

2年生になった今年度、ケニアでの長期インターンシップに挑戦。はじめの5か月間は国際保健に携わる日本のNPO団体「HANDS」の母乳育児に焦点を当てた母子保健サービス向上プロジェクトに参加し、プロジェクトマネージメントを学びました。現地スタッフといかに協力しながらプロジェクトを進めていくに注力したことは、愛知淑徳に在学中、目標に向かって仲間と力を合わせた経験と共通していたと思います。改めて、人と人のつながりがどんな場面においても大切であると感じ、国際協力の現場でのコミュニケーションについて体験的に学ぶことができました。

また3か月間は研究に取り組み、出産場所と関連する要因について、フィールド調査を通して明らかにしていきました。このように約8か月間、ケニアで貴重な経験を重ねることができ、自分が望む道へ、一歩近づくことができたことと手ごたえを感じています。

### ◆自分が望む道を 今後も歩み続けたい

ケニアに行つて学ぶ意欲がさらに高まったため、現在は博士課程に進学したいと考えています。その先は、NGO運営者、国際保健医療コンサルタント、研究者など、具体的な進路は決まかれています。自分の可能性を狭めずに今後も自らの道を切り拓いていくつもりです。愛知淑徳学園で学ぶ皆さんも、ぜひ目標に向かって信念を貫いてください。その思いが、強い力になります。



ケニアでのインターンシップ先では、日本人3人、ケニア人3人でともにプロジェクトを進めた。右から3人目が小野さん。